



REAL RACING

天候:くもり(9月8日予選日)

コースコンディション:ウェット

気温:21°C(15時00分時点) 路面温度:26°C(15時00分時点)

9月8(土)~9日(日) 岡山県・岡山国際サーキットで2018年全日本スーパーフォーミュラ選手権第6戦が開催された。今大会の大きな変化点としては、スーパーフォーミュラ初の試みとなるQ3でのオーバーテイク・システムの使用(2回のみ)。そして岡山大会では初めてとなるタイヤの2スペック制である。

9月8日(土)、雨が降ったりやんだりと安定しない天気を迎えた予選日。路面は終始ウェット状態となった。雨は弱まっていたものの、ウェット宣言で迎えた予選は定刻15時15分に開始された。セッション開始と共にコースインしたリアルレーシング#17の塚越広大。ユーズドのウェットタイヤを装着し、前半のアタックに入ろうとした塚越だったが、1周の計測を終えたところで、他チームのマシン2台がコースアウトしたため赤旗が掲出されピットイン。その後コースクリアと共にセッションが再開し、改めてアタックに入る。数周の周回を重ね1'28.386を計測すると、マシン調整の為にピットイン。そして新品のウェットタイヤに履き替えQ1後半のアタックに入るためコースインする。周回を重ねるごとにタイムアップを計り、猛然とした走りで予選上位をキープする。1'27.057というタイムでチェッカーを受けた塚越は、3番手タイムをマークし、Q2へ進出を決めた。

Q1からインターバルを挟み、16時4分からQ2が開始。7分間という短時間での予選時間を有効に活用するべく、早々にユーズドのウェットタイヤでコースインした塚越は、ウォームアップラップを経て、アタックラップに入る。Q3に向けてフルアタックを続ける塚越は、4周目に1'26"545をマークし自己ベストを更新。その後5周を終えたところでチェッカーを受け、7番手タイムにて予選Q2を終了した。

Q3セッションが開始されたのは、14時21分。乾き始めた路面コンディションの中、ユーズドのウェットタイヤでコースインする。どのチームよりも先駆けてアタックラップに入ると、オーバーテイク・システムを活用し1'25.429のタイムをマーク。その結果7番手タイムを計測し、翌日の決勝スターティンググリッドを7位から出走することに決めた。

天候:雨(9月9日決勝日)

コースコンディション:ウェット

気温:23°C(14時55分時点) 路面温度:24°C(14時55分時点)

9日(日)朝から雨が降り続ける岡山国際サーキットで、午前9時から始まったフリー走行は、本降りの強い雨の中行われた。午後の決勝に向けて雨のレースを攻略するべく、フリー走行に臨んだ塚越だったが、悔しくもこの走行でクラッシュを喫してしまう。マシン修復と共にエンジンを交



REAL RACING

換しなくてはならなくなったリアルレーシング #17 のマシンは、規則に則り 10 グリッド降格が決定。予選結果 7 番手からの出走予定のところを、残念ながら 17 番グリッドからのスタートとした。そして迎えた第 6 戦の決勝。激しい雨でスケジュールの変更が続き、当初の予定から大幅に遅れてウォームアップ走行が開始された。その後のスタート進行を経て、14 時 55 分に 68 周から 54 周に変更されたレースが、セーフティーカー先導のもとでスタートすることとなった。雨は降り続き、コース上は先導車両のスピードでも、水煙が高く見えるコンディション。隊列走行は 6 周目まで続くが雨脚は弱まらず、7 周目に入ったところで赤旗が掲出されレースは中断する。全チームがマシンをメインストレートに止め、レースの再開を待つ。雨脚が弱くなった 16 時 10 分、残り計測時間 51 分としてセーフティーカーを先導に決勝レースが再開。そして 12 周目の終わりに、セーフティーカーがコースから退出すると、本格的なレースがスタートするが、その再スタートと共に 2 台のマシンにオーバーテイクを喫してしまった塚越。一時は 18 番手まで順位を下げてしまう。だが、その後は諦めない走りで少しずつ順位を上げ、22 周目を終えると 14 番手まで浮上。更なるポジションアップを目指し続け戦う塚越だったが、その翌周となる 23 周目に他チームのマシン 2 台が接触し赤旗が掲出され、セーフティカーランとなる。26 周目を迎え、先導車両が退出するとレースは再スタート。雨で目の前も見にくい状況の中、果敢な攻めの走りを魅せた塚越は 31 周目を終えると 13 番手にまでポジションアップ。残りの周回で、更なる塚越らしい渾身の走りをみせるべく、前を行く車両を見据えて走行を続けるも、またもや他チームの車両がマシンをコースに止めた為、残り時間 5 分弱ということこで、セーフティーカーが導入される。そして 34 周を終えたところでレース制限時間となり終了。塚越は 13 番手でチェッカーを受けた。
※その後、上位のチームにペナルティの裁定がなされ、レースの正式結果で #17 塚越は 12 位となりました。

悪天候にも拘わらず、応援フラッグを振り続けてくださいましたリアルレーシング応援団の皆さま、本当にありがとうございました。

レースは残すところ最終戦の鈴鹿大会のみとなります。私たちリアルレーシングにとってのホームコースとなる鈴鹿最終戦。2018 年シーズンの締めくくりを笑顔で終了し、歓喜に満ちた結果になるよう、弛まず、諦めず、チーム一丸となることを皆さまにお約束し、鈴鹿大会への準備を進めて参ります。引き続き、皆さまの応援をよろしくお願いいたします。